

年が明け、「少しは良くなる方へ向くのでは」と微かな望みを抱いていたわけですが、新型コロナウイルスの感染拡大が増加の一方で、開催近くになりどりーむコンサートを無観客とするなど急遽変更することになり皆様にご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

さて、園では、始業式、かるた大会、お誕生会、なわとび大会と、この1ヶ月で次々と行事に取り組んできました。一つ一つの行事で、子どもたちは、自分自身を成長させたり可能性を広めたりしてきました。子どもたちの取り組む様子を見てみると、悔しがって涙を流す姿にさえ、実にほほえましく嬉しくなってきました。というのは、「くやしい」という感情は、その後、様々なエネルギーの、可能性の原動力となるからです。

しかし、ふと冷静に考えると、「くやしい」だけでなく、「うれしい」もそうですし、喜怒哀楽の感情は、様々なエネルギーの、可能性の原動力となっていると思います。

ここでちょっと思い出したのは、「うれしい」だけで、その後の努力、継続がないと、「すたれてしまう」ということです。何のことかと言いますと、私の「絵」です。小さかった頃、小学校に入る前だったと思います。「鉄腕アトム」(わからない人は調べてください)が大好きで、鉄腕アトムを画用紙にかきました。自分でもうまいと思っていたのですが、親からもほめられ、家に来た人たちからもほめられ、「うれしいが重なり」次々と絵をかいたのでした。次々とほめられ「自分は絵がうまい」と思うようになり、小学校の4年生ごろまでは「画家」か「漫画家」が自分のなりたい職業でした。・・・その後いろいろありましたが、大人になって、絵をかいてみたら、啞然としました。かけなかったのです。上手に。極端に言うと、小学校に入る前のあのころより「へた」になっていたのでした。「う～ん」と思いました。「やはり継続は力なりで、やっていないと、すたれてしまうのか」と思ったのでした。

さて、以上は、「逆転現象」のその1です。

逆転現象は、一人の人間に、思いのほか多くあります。

私の場合、小さかった頃は、体重は平均以下でした。今は、・・・。

小さかった頃、人前で歌うのは嫌いでした。苦手でした。新型コロナが流行ってからは行っていませんが、大人になってからは人前で歌うのが嫌いではなくなりました。調子に乗ると続けて歌ったりします。

小学生の頃、「字がうまい」とほめられました。今は、・・・。

小学校までは、作文、文章を書くのが大の苦手でした。嫌でした。ほかの人が長々と書いているのを見て、「よく書けるよな～」と思ったことを今でも覚えています。今は、苦しいときもありますが、けっこう書けるようになりました。

昔は、健康のために歩く人の気持ちに分かりませんでした。不思議でしたが、今は、わかります。歩けるときは、歩いています。

以上は、逆転現象のその2からその6でしたが、逆転しないものもけっこうあります。その一つが「三つ子の魂百まで」です。全員が当てはまるとは言いませんが、それこそ「魂」は、そのときから続いているような気がします。

さて、話がどこに向かうか自分でもちょっとわからなくなりましたが、思い出したことで続けさせていただきます。それは、「こつ」です。「なわとび」で思い出しました。初めてなわがぐるぐる回っているのを見て、どうしてひっかからないのとべるの? と思った時、思っていた時、先生だったか先輩だったか、友達だったかは忘れたのですが、「なわが地面についたとき、入っていくといいよ」と言われ、その通りにしたら、なわをくぐれたのでした。私としては、その時が、人生で初めて、「こつ」を体験した時でした。「こつ」という言葉は後から知った言葉だと思うんですが、この「こつ」は、いろいろなときに、いろいろなものに「ある」と、その存在を確認するのでした。

「竹馬では、竹をやや前にたおす」が、私としての「こつ」でした。自転車で補助車を外した時も、こつを見つけたと思いました。今、その言葉は思い出せませんが、最高のこつは、今はできませんが、友達が教えてくれた「地上展開(前方倒立回転)のときは、あごを出す」でした。あごを出すようにしたら、不思議とできたのでした。ジャニーズのように、一見、危なさそうなのですが、逆に安全にできたのでした。この時ほど「こつ」を痛感したことはありませんでした。・・・ほかにも「こつ」はいっぱいあったように思います。大げさに言えば、何事にもあるようにも思えます。

ちょっと、いろいろと書いてしまいましたが、まとめさせていただきます。

「こつ」は、「こつこつ」と続けることが大切です。